

平成24年10月の解説（週間天気予報）

【10月の天候状況】

上旬は、北日本では天気は数日の周期で変わり、台風第17号、第19号や気圧の谷の影響により太平洋側を中心に曇りや雨の日がありました。また、北日本は気温が高い日が多くなりました。東・西日本と沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。

中旬は、北日本では北海道を中心に気圧の谷の影響を受け、曇りや雨の日が多くなりましたが、東北地方から東・西日本にかけては旬の前半を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。沖縄・奄美では、旬の中頃にかけては、前線や台風の影響により、曇りや雨の日が続きました。なお、17日から19日にかけては、台風第21号の影響により全国的に雨となり、東日本から沖縄・奄美にかけては大雨となった所がありました。

下旬は、北日本から西日本にかけては、低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりました。沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。23日と28日は日本海から北海道付近を通過した低気圧の影響により全国的に雨となり、大雨となった所がありました。

月平均気温は、北日本でかなり高く、東日本で高くなりました。一方、沖縄・奄美では低くなりました。西日本では平年並でした。月降水量は、北日本の太平洋側、東日本の日本海側で多くなりました。北日本の日本海側、東日本の太平洋側、西日本では平年並でした。沖縄・奄美では少なくなりました。月間日照時間は、東・西日本の太平洋側でかなり多く、東・西日本の日本海側で多くなりました。北日本、沖縄・奄美では平年並でした。

【10月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は、全国平均では例年値^(注)より6ポイント高い78%でした。地方毎の適中率は、東日本と西日本で5ポイント以上高く、北陸地方で10ポイント、東海地方では15ポイント高くなりました。

最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、太平洋側の地方を中心に例年値より0.5℃以上小さい地方が多く、全国平均では例年値より0.4℃小さい1.7℃になりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、例年値程度か例年値より小さく、北陸地方で例年値より0.5℃小さくなりました。全国平均では例年値より0.3℃小さい1.8℃になりました。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【12月の週間天気予報の利用にあたって】

12月は低気圧が通り過ぎるごとに北から冷たい空気が流れ込んで寒くなり、北日本では本格的な雪の季節が始まります。北海道地方では雪への対策が必要な時期ですが、東北地方より南では雨が降ることも多く、天気予報では降水が雪となるか雨となるかが重要なポイントとなります。

降水が雨となるか雪となるかは、主に地上付近の気温等によりますが、湿度や上空の気温などによっても違います。天気予報では、雨ではなく雪となる地域や時間帯の割合が大きいときは「雪か雨」、また、雪に比べ雨になる割合が大きいときは「雨か雪」と発表しています。雪になると交通機関などに大きな影響がありますので、週間天気予報で雪の予報が出ているときは、事前に雪への備えが必要となります。